

深海1,344メートルにあるはずのないものがなぜここに？ 海のプラスチックごみの真実

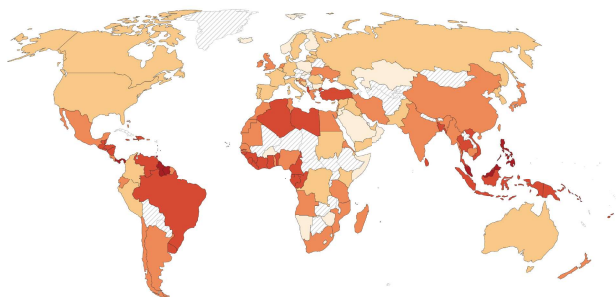


役立つ？困りもの？プラスチックの光と影

軽くて丈夫なプラスチックは、食品包装や衣服、建材など多くの分野で使用されています。

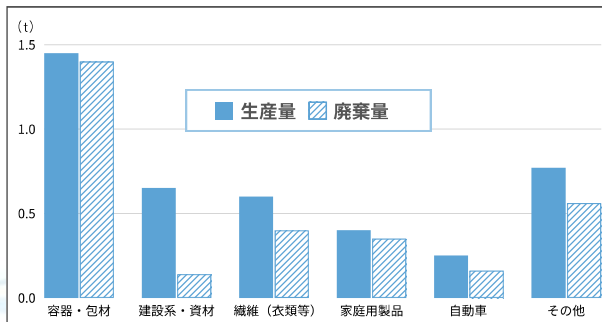
しかし、その便利さゆえに、必要以上に生産され、大量に廃棄されているのも事実です。2019年には、世界で4億6千万tのプラスチックが生産され、そのうち3億5千万tが廃棄されました。海への流出量でいうと、年間1000万tをこえるという試算もあります。さらに、世界中の河川には1億t以上のプラスチックが蓄積されているとされ、これらは将来的に海に流出する可能性があります。便利さと引き換えに海を汚すごみが生まれている現状についてよく考えてみましょう。

▼一人あたりの海へのプラスチックごみ排出量 (図1-1)



これは1年間に1人あたり「どれくらいのプラスチックごみが海に出てしまうか」を推定した数値です。ただし、海外に輸出されたごみは含まれておらず、実際にはこの数値より海に流れ込んでいる可能性があります。

▼世界の分野別プラスチック生産量・廃棄量(2015)(図1-2)



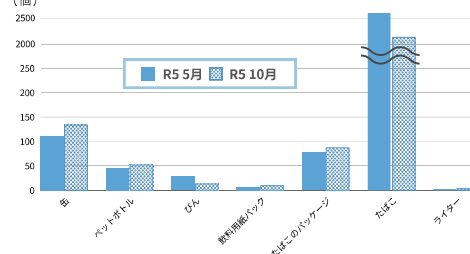
どのように海へ？プラスチックの旅路

私たちが出すプラスチックごみは、正しく回収されなければ雨風に流されて道の側溝へ入り、そこから河川へと運ばれます。河川に入ったごみは海へとたどり着き、波や風で広がりながら最終的には深海にまで届くこともあります。

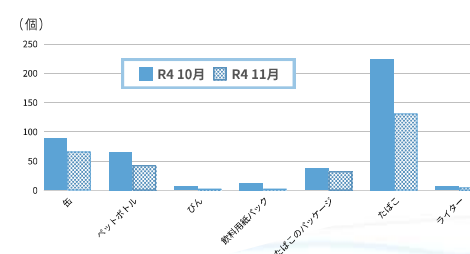
身近な場所から出たごみが、地球の奥深くまで広がってしまうのです。

▶ ワークシート タスク 03

▼横浜駅西口周辺のごみの個数 (図1-3)



▼いたち川(横浜市)のごみの個数 (図1-4)



便利だけのごみになるとやっかい？プラスチックの性質

プラスチックは、軽くて耐久性が高く水も通さない上に安価な素材です。これらは様々な物に姿を変えて私たちの生活を支えている一方で、一度ごみとなって海に出てしまうと、その強い性質のために長い期間残り続けます。仮に劣化したり割れたりして細かくなっても分解されることはなく、小さな粒となって漂い続けます。



▶ ワークシート タスク 01-02

探究の道しるべ

良い問いのつくり方とは?

▶ [ここをクリック!](#)

または p.09 の一覧表を参照

▶ ワークシート タスク 04-05